

令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

でぐち ひろふみ
小中一貫教育推進室長 出口 博文



仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

新型コロナウイルスの影響により令和2年度は学校園が臨時休業となるスタートでした。このような状況下において学校が子どもたちにとって非常に大切な場所であるということ、学校が社会に大きく影響を与えることをこれまで以上に実感いたしました。

社会の出来事を自分事として考えられること、どのような状況下においても生きることの出来る人間力の育成がこれからの教育において求められるものであると考えています。これらの力を小中一貫教育、なかでも東大阪市の独自教科である夢TRY科を中心に、学校と連携しながら育んでまいります。

令和元年度の振り返り

令和元年度より東大阪小中一貫教育が本格実施となり、「学校移行期における円滑な接続と適応」「確かな学力の定着」「郷土に誇りをもつグローバルな人材『グローバルな人材』の育成」をめざし、各中学校区において小中一貫教育の特色ある様々な取組みが積極的に進められました。現在、新型コロナウイルスの影響により子どもたちの教育を取り巻く状況は大変厳しいものとなっておりますが、このような状況からもこの取組みが重要であったと認識できました。

令和元年度は、ほぼすべての学校を訪問し、子どもたちや教職員の様子を見て回りながら、その実態に応じて小中一貫教育を推進してきました。

大きな役割を果たしたのは各中学校区に一人ずつ配置している小中一貫教育コーディネーターです。中学校区での活動の様子や小中一貫教科の夢TRY科の授業づくり、実際の授業の様子を見ますとコーディネーターのこれまでの取組みの効果とその重要性をあらためて感じました。引き続き、コーディネーターとの連携・支援を継続しながら、子どもたちの教育に関わる保護者・地域の皆さま、教職員とともにチームとなって、つながりを生かしながら東大阪小中一貫教育を推進してまいります。